

インフォメーション Information

市民活動センター  
週末プチイベントのお知らせ

市民活動センターでは、市民活動の場をつくるために、毎週末、プチイベントを開催しています。また、同時にプチイベントをやってみたい市民活動団体、ボランティアの方を募集しています。詳しくは、下記までお問合せください。

◆iPhone 活用術

iPhone、iPad を市民活動やビジネスに活用するための利用方法を勉強します。

日時：3月12日(土) 10:30~11:30  
会場：安桜ふれあいセンター 2階 会議室  
定員：20名 参加費：無料  
講師：ソフトバンクモバイル株式会社の方

講座のご案内

◆市民活動のための資金獲得方法とは

日時：3月9日(水) 19:00~21:00  
会場：安桜ふれあいセンター 2階 会議室  
受講費：無料 定員：30名(申込先着順)  
講師：木村 真樹さん(コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事)

その他

◆市民活動助成金の活用事例報告会

(同時開催：関市きらめき・いきいき市民活動助成金説明会) 市民活動団体、市民活動に興味のある方など、どなたでもお気軽にご参加ください。  
日時：3月6日(日) 14:00~16:00  
会場：わかさプラザ総合福祉会館3階 会議室  
発表団体：瀬尻小おらが学校推進委員会/上之保グリーン・ツーリズム協議会  
NPO法人ふるさと自然再生研究会/関市地域プラットホーム ハーモニー/  
NPO法人洞戸村ふるさと塾/関からあげ学会

◆「関市きらめき・いきいき市民活動助成金」  
申請団体募集

市内で活動する団体が地域の活性化のために行う事業に対し助成を行います。助成金を希望する団体は次のとおり応募してください。  
1.募集期間：平成23年3月1日(火)~平成23年3月25日(金)  
2.助成内容

助成金名称	助成対象団体	助成対象事業	助成率	助成金の上限額
きらめき市民活動助成金	NPO法人	NPO法人が実施する不特定多数の者の利益の増進に資する事業	事業費の3分の2	100万円
いきいき市民活動助成金	市民団体	地域の振興に資する事業及び市の一体化に資する事業	事業費の3分の2	100万円

3.提出書類：助成金申請書、事業計画書、収支計画書、団体調査など(書式は、関市ホームページよりダウンロードできます。)  
4.助成事業の決定：公開の審査会において審査の上決定します。  
5.申込・照会先：まちづくり推進課 (電話0575-23-7711)

お申込み方法

下記連絡先へ希望講座・お名前・TEL・FAX・E-Mailをお伝えください。  
関市市民活動センター

TEL：0575-24-7772 FAX：0575-24-7660  
E-Mail：info@seki-siminkatudo.com

市民活動センター  
サービスメニュー

提供サービス

- 1 コピーサービス……………1枚10円
- 2 輪転機サービス……………1回500円  
※安桜ふれあいセンターの輪転機となります。 製版1回毎に50円(紙は持ち込み)
- 3 紙折り機サービス……………無料
- 4 PC利用サービス……………無料
- 5 ラミネートサービス……フィルム代実費(A3まで)
- 5 プロジェクター・スクリーン貸し出しサービス……………無料
- 5 簡易ミーティングスペース(6名程度)……無料

その他、イベントや仲間募集などの「チラシ」や「ポスター」の作成サポート、パソコンのワンポイントレクチャーも行っていきます。



新サービス開始

メルマガ「おどろ木のひとひら」  
配信開始しました

関市で市民活動をされる皆さんに定期的に情報をお届けしたいという願いから、当センターメールマガジン「おどろ木のひとひら」を創刊しました。  
市民活動のお役立ち情報のほか、各団体のイベント情報など盛りだくさんです。毎月1日の配信です。配信ご希望の方は当センターまでお知らせください。次号より配信いたします。メールアドレスのない方には、FAXでの配信もしています。

また、翌月翌々月の情報もお待ちしております。掲載をご希望の方は当センターまでお知らせください。  
info@seki-siminkatudo.com

関市市民活動センターだより「しっぷす」

Vol.4

しっぷす

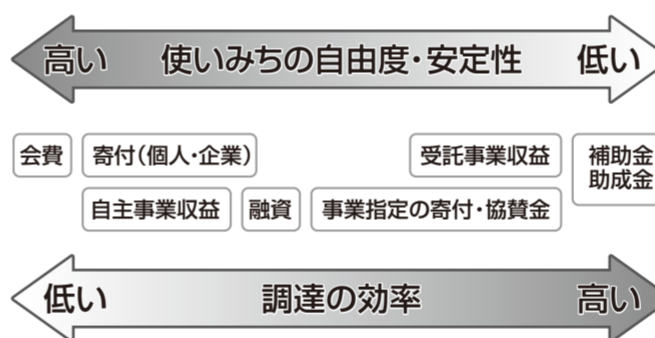
CITIZEN'S POWER NEWS



特集 助成金獲得のコツ

「資金不足」。市民活動団体にとって、いつもつきまとう課題です。そんな課題解決に大きな力になってくれるのが助成金です。関市市民活動助成金の応募開始目前の今、助成金獲得のコツについてお伝えします。

1 助成金とは



助成金とは、行政や民間組織が特定のテーマや目的にかなう活動の成長を助けるために提供される資金です。市民活動団体の資金源は会費、寄付、助成金、事業収益等がありますが、その中で助成金は、調達効率は良いですが、継続性が期待できず、事業費に限られ運営費は出ないことの方がほとんどです。そのため、運動性の強い事業、試行性の強い事業、短期的で一定の成果が求められる事業には適していますが、対価性の高い事業、継続的で安定的な収入が求められる事業には適していません。やりたい事業が助成金に適するののかよく検討する必要があります。

図1：NPOの資金源  
2006年日本NPOセンター/まちづくり情報センターかながわ編  
「知っておきたいNPOのこと(資金編)」

2 まずは下調べ

◆助成金情報はここで探す

現在どんな助成金が募集中で、いつ締切なのか。この情報は常に気を配っていなければなりません。助成金に関する情報は、リアルタイムで反映されるWEBサイトで収集することが有効です。例えば、右記のサイトが参考になります。

☒ NPOWEB <http://www.npoweb.jp/>

NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会が運営する、分野・地域を幅広く網羅されているサイト

☒ NPOナビ岐阜 <http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kurashi-chiikidukuri/npo/nponavi-gifu/>

ぎふNPO・生涯学習プラザが運営する、岐阜県内の補助・委託事業を中心に全国的な助成金情報が得られるサイト

「獲得しやすい助成金は何か」と聞かれることがあります。もっとも端的に言えば、「ライバルが少ない助成金」でしょう。企業、助成団体が主催する全国向けの助成金は、助成額が大きい分、ライバルも多く獲得のハ

ドルは上がります。一方、地域の助成金は一般的に助成額が小さいことが多いですが、ライバルが少なく比較的獲得しやすくなります。

関市市民活動センター「しっぷす」 ☎0575(24)7772 FAX 0575(24)7660

e-mail info@seki-siminkatudo.com  
<http://www.seki-siminkatudo.com/>

〒501-3866 関市千年町2-18-1 安桜ふれあいプラザ内

【利用時間】①火曜日~金曜日 午後1時~午後8時 ②土・日曜日、祝日 午前10時~午後5時  
【休業日】月曜日・祝祭日の翌日

発行2010年2月20日

今回は4月に発行いたします。

# 3 助成金申請書の書き方



**◆申請書はラブレター**  
 助成金の申請書を書く際、お金の出し手は何を期待しているのか考えることが大切です。独りよがりのラブレターでは、相手に想いが伝わりませんよね。まずは、助成金の募集要綱に記載されている「趣旨」を徹底的に読み込むことが第1歩です。そして、「審査基準」を確認し、自分の何を見られているのか確認してください。どんな性格の人(事業趣旨)が好みなのか、誠実さ(実現可能性)を見られているのか、実はあなたの財布の中身(財務)も見られているかもしれません。  
 申請書は、下記のポイントに注意して書きましょう。

**読み手にわかりやすく**  
 スマートな文章はもちろんです。図、表、フォント、太字、下線等を使い見やすさに注意

**内容を詰め込み過ぎない**  
 あれもこれも書くつもりで、テーマがぼやけてしまします。時には切り捨ててポイント絞ることが大切

**助成金がなくともやれること**  
 助成金がなければやれない事業ではなく、なくても必要だからやる事業。助成金があれば、何倍もの効果が得られるというスタンス



**◆伝わる申請書の書き方**  
 関市市民活動センターでは、平成22年3月に、木村正樹さん(コミュニティユースバンク momo 代表理事)に「市民活動のための活動資金・助成金獲得講座」を開催しました。その中で木村さんが示した助成金の書き方を紹介します。  
 1. 課題を伝える→2. 解決策を示す→3. 支援を依頼するの順番があると話されます。  
 さらに具体的に示したものが次の表です。

課題を伝える	解決策を示す	支援を依頼する
「本当に必要とされているか？」をデータや事例で	活動の実現可能性(誰が、いくらで、どのように?)	助成する。解決策を買ってもら
論理(左脳)だけでなく感情(右脳)・想いを伝える	団体の存在が解決策	相手のニーズとこちらのニーズの両方を満たす
重大性・緊急性・長期性など	基本的な団体情報(基礎情報、運営体制、活動実績、財務状況)	支援依頼から逆算して考えていく。

表1: 申請書に大切なこと(市民活動のための活動資金・助成金獲得講座より)

**◆助成金を申請するときの注意**  
**「助成金貧乏」にならないために**  
 助成金は獲得してからが大変です。当然ながら用途の外れた使い方をすれば、助成金を返却しなければなりません。また、活動報告書は大小様々ですが、財務報告を含めて簡単なものではありません。しかし助成金活動の管理や報告書作成に人材、時間を使いすぎてしまう「助成金貧乏」にならないよう申請しましょう。もらった助成金以上に人件費、時間を使ってしまつたら、本末転倒ですから

**さいごに**  
**関市きらめき・いきいき市民活動助成金の募集ははじまります!**  
 平成23年度の関市市民活動助成金の募集がスタートします。市町村が行っている市民活動助成金の中でも、これだけ大きな額(上限100万円)で比較的利用しやすい(人件費、間接経費もある程度認められている)ものはめずらしいものです。みなさまぜひチャレンジしてください。  
**詳しくは、4Pへ**

## イベント開催! 市民活動の資金獲得を考える2日間

**3/6 市民活動助成金の活用事例報告会**  
 同時開催: 関市きらめき・いきいき市民活動助成金説明会  
 市民活動団体、市民活動に興味のある方など、どなたでもお気軽にご参加ください。  
**日時** 3月6日(日) 14:00~16:00  
**会場** わかくさ・プラザ総合福祉会館3階 会議室

**3/9 市民活動のための資金獲得方法とは**  
**日時** 3月9日(水) 19:00~21:00  
**会場** 安桜ふれあいプラザ 2階 会議室  
**受講費** 無料 **定員** 30名(申込先着順)  
**講師** 木村 真樹さん(コミュニティユースバンク momo 代表理事)



# 動き出す関のジーン



笑顔で展望を語る理事長の狭間さん  
**■興味のある方はこちらへ**  
**特定非営利活動法人 ぎふ木と森の学校**  
 関市下有知3486番地1  
 090-2680-5251

## 「森林のことをもっと意識してほしい」

昨年末、市内で30団体目になるNPOが誕生した。若き理事長は、岐阜県立森林文化アカデミーを卒業する狭間美絵さん。以前は法律事務所に勤めていたが、新しい分野へチャレンジしたいという思いを強め、関心のあった環境問題を学ぶべく入学。狭間さんを目の前にすれば、この2年間が実り多きものだったことが分かる。アカデミーで卒業生や同級生から刺激を受け、できることは全部やろうと思いついて、卒業生と立ち上げたのがこのNPOだ。  
 「木と森を通じて持続可能な循環型社会への構築に寄与すること」という設立目的のもと、「環境教育を通じて非行少年の更生」にも取り組みたいと話す。大学時代に気付いた非行少年を取り巻く閉塞窓。森林がその突破口になるかをアカデミーで研究してきた。  
 しかし、触法少年と森林とを結びつけることは狭間さんにとっては必然だったものの、国内で大々的に取り組んでいる団体や地域を見つけることはできない。世界的に見ても、ノウハウが確立されているとはいえないようだ。加えて、少年とのアプローチも難しく、保護司などの専門的な知識を持った地域の人とのネットワーク作りが急がれる。また、全国に発信していく必要性も感じている。  
 「今よりも森林のことを皆が意識するようになるといい」とゴールを広く構える柔軟な姿勢が、今の一番の魅力だろう。これが発行される頃には、また新たに何かを吸収して、緩やかにゴールを目指し始めているのだろうか、と思わせるところがある。

# その時、関市が動いた

**Vol.2 ふるさとの武儀はもう一度見つめなおそう**  
 「武儀のむかし話」伝説  
 ロマンウォークの会の挑戦



昔話が失われていく地域が多いなか、冊子「武儀のむかし話」(平成17年初版発行 発行責任者 丹羽鈴子氏)をよりどころに、活発な活動を行う団体が武儀地域にある。  
 かつてこの冊子は各家庭に配布され、続編も出るほどの話題になった。地域への関心は高まっていた。さらに、そこから歩を進めて「武儀のむかし話」伝説ロマン・ウォークの会を発足できたのは、3年前のことだ。  
 丹羽政則さんが「武儀のむかし話」盛り上がりを一過性で終わらせてはいけないと声をあげたところから一つのうねりがはじまった。「よし! この冊子を幹にして、私たちの故郷、武儀をもう一度見つめてみよう」。  
 NPO法人日本平成村、「武儀のむかし話」発刊時の関係者、趣旨に共鳴した有志など10名の賛同を得て、平成20年の春に設立準備委員会が立ち上がった。そして、「武儀のむかし話の里」として親しまれるようなまちづくりを行うため、ロマン・ウォークの会を発足する

こととなる。  
 今や、彼らの精力的な活動を様々なところで見つけることができる。歩いて調査し作成した、手作りの「ウォーキングマップ」は、数カ所まで配布される予定であり、道の駅にはその大きな看板もある。配布体制を整えたのも、看板を制作したのも彼らだ。  
 会の活動が大きく広まるなかで、今年度は市民活動助成金の審査を通過し資金面の拡充を計ることができた。さらに、綿密な現地調査を続け、会のPR標語「先人の情趣おりなすロマン道マップ片手に君と歩こう」の実現のため、多くの人に歓迎されるマップ作りや看板・案内板を設置したいと考えている。会長となった丹羽さんは「活気あるロマン豊かな地域づくりを目指した活動を進めていきたい」と語る。  
**【「武儀のむかし話」伝説ロマン・ウォークの会】会長 丹羽政則**